

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）  
（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究  
～オール四国の体制の整備～  
課題番号：21HB1007

【分担研究2】四国の高齢者施設における HIV 感染症等に関する研修会の開催および実態調査

研究分担者：高田 清式（愛媛大学医学部附属病院 教授）

研究要旨：四国のようにブロック拠点病院が近辺になく、県内の個々のエイズ拠点病院が十分に機能していない、いわゆる地方の比較的医療過疎である地区に、本研究によって HIV 診療の充実や均てん化が促されていくことが期待されている。令和4年度は、愛媛県では高齢者施設における HIV 感染症等に関する研修会の開催を県（健康増進課）の協力のもと県内の高齢者施設から現場の福祉・介護担当者に募集のもと参加してもらい、HIV 感染症等に関する研修会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染のこともあり中止した。そのため、（講演できない面を補足する）講演すべき内容を判りやすく冊子として作製し各高齢者施設に配布した。特に高齢の HIV 感染者が多い実情や今後介護の面で問題になると考えられる HIV 関連認知機能障害（HAND）についても啓蒙した。地方での HIV 診療のモデルとして体制整備・充実に努めつつあるが、都会からの帰郷なども要因である高齢の HIV 感染者が年々増加傾向にあるため、介護施設での啓蒙は継続して必要と考える。

**研究分担者**

末盛浩一郎・愛媛大学医学部・准教授  
武内世生・高知大学医学部・准教授  
今滝修・香川大学医学部・講師  
尾崎修治・徳島県立中央病院・医療局次長  
井門敬子・南松山病院・薬剤部長  
若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師

**A. 研究目的**

ブロック拠点病院が近辺にない愛媛県において当院は、エイズ地域中核拠点病院に指定され、累計 220 名以上の患者を治療している。四国地区は近年 HIV・エイズ患者

の増加が著しく、当県もエイズ拠点病院に指定されている病院が 15 施設もあるものの殆どが診療未経験であり、大半の患者が当院に受診している。かつ四国地区は、高齢化率が各県 31.5～34.8%であり、都市に比べ高齢者の HIV・エイズ患者が多く、HIV 感染および合併症が進行し日常生活に差し障りが著しく自宅以外での長期療養が必要な例も少なくない。当院は急性期病院の立場であり、自宅で生活困難な長期療養患者の対応については、他の施設への紹介・受け入れを個々の事例において行っているが HIV に対する不安や感染リスクが問

題になり、受け入れに難渋しているのが実情である。さらに治療以外にも家族対応および就業面など社会的な対応も迫られることも多い。これらの実情のもと、数多くの医療スタッフによるチーム医療が必要な領域であることを踏まえて、当院では数年前より HIV 診療チームを立ち上げ活動しつつある。こうして愛媛県各地域の各病院・施設と連携を行うように努めているものの、対応すべき HIV 感染症患者は多くかつ経済・人材面も満たされておらず、連携しうる病院・施設への啓蒙や人材の育成も患者数の増加からは極めて不十分な状況である。このような背景のもと、中核拠点病院の立場から、県内の病院・施設との連携整備、さらには県・市の保健行政との連携も踏まえ、HIV 感染者・エイズ患者に対する診療体制を整備し充実を図りたいと考えている。ブロック拠点病院の存在しない四国地区全体の HIV/エイズ診療体制の充実に努めることを実行していきたい。

さらにこれらの研究成果は、エイズ学会をはじめ多くの機会に公表・報告していくことで、他府県などにモデル地区としての立場で発信し、四国のみならず全国の地域の HIV 診療の充実に努めたい。

## B. 研究方法

四国の高齢者施設における HIV 感染症等に関する研修会の開催および実態調査

各県の行政の協力のもと高齢者施設から現場の福祉・介護担当者に参加してもらい、HIV 感染症等に関する研修会を開催する。特に高齢の HIV 感染者が多い実情や今後介護の面で問題になると考えられる HIV 関連認知機能障害 (HAND)、最新の知見 (治療が良好なら感染しない U=U) につ

いても啓蒙する。知識啓蒙と参加者各自に HIV 感染者を支援することの自覚を促すことを目的に、研修会の終了時に HIV 感染者の福祉・介護についてアンケートを行う。(倫理面への配慮)

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

## C. 研究結果

介護保険サービス従事者を対象に松山保健所とエイズ対策セミナー「介護保険サービスに役立つ感染症の話題」を令和 5 年 2 月 10 日に開催した。なお開催した内容に基づいた冊子を作成し(講演内容を補足する目的で)各高齢者施設に配布し最先端の HIV 感染症の話題・知識の啓蒙を行った。

図 冊子内容(一部抜粋)介護に必要な HIV の実践的な知識を自学用に多く含む。

## D. 考察

全国的に少子高齢化社会になりつつあり、高齢化が一步進んでいる愛媛県および四国は、今後の HIV 感染者の高齢化と介護・福祉対策を考える上で代表的なモデル地区と考える。

四国地区にはブロック拠点病院はないものの、当院では令和 4 年度末現在累計 220 名以上の HIV 診療経験があり（県内の大半の HIV 診療を担当）、愛媛県での中核拠点病院の立場にある。また、四国の他県からも患者は通院している現況である。HIV 感染者・エイズ患者が全国的に増加する傾向にあるが、四国も例外ではなく、愛媛県においても新たに毎年 10 名以上の新規感染者・患者が報告されており、また年配の帰郷者も少なからずあり、そのため高齢の HIV 感染者が多く見られ HIV 診療の充実は早急に迫りつつある課題であると考えられる。さらに愛媛県をはじめとする地方においては、高齢の HIV/エイズ患者が比較的多く、愛媛県において令和 4 年末現在 50 歳以上の 8 割は発見時にエイズ患者であるという現実があり、各拠点病院と長期療養患者を受け入れ得る介護・福祉施設間の連携は喫緊の課題である。

令和 4 年度は、愛媛県の高齢者施設からの募集による研修会は新型コロナウイルス感染蔓延にて開催できなかったが、Web 開催で介護保険サービス従事者を対象に松山保健所とともにエイズ対策セミナー「介護保険サービスに役立つ感染症の話題」を令和 5 年 2 月 10 日に開催した。そのため、

（Web 講演であり、直接の講演できなかったため伝わりにくい面を補足する）講演すべき内容を判りやすく冊子として作製し各

高齢者施設に配布した。特に高齢の HIV 感染者が多い実情や今後介護の面で問題になると考えられる HIV 関連認知機能障害（HAND）についても啓蒙した。

HIV 感染者の高齢化にあたり、HIV 診療および福祉連携のあり方についてさらに充実に努め、高齢化率の高い愛媛県のような四国地方において、その介護福祉連携のモデル地域として今後も研究・報告を当地区から全国に発信していきたいと考える。

## E. 結論

ブロック拠点病院がない四国地域において、HIV 診療体制整備のために Web 講演ながら研修会を行い、高齢介護施設の介護・福祉担当者への資料配布を行った。高齢化社会を迎え介護・療養が必要な HIV 感染・エイズの増加に対応するために、HIV 診療体制の整備は、特に地方においては拠点病院間のみならず介護・福祉施設との福祉連携の充実が不可欠であり研究を継続し地方のモデルという立場からもさらに向上に努めたい。

## F. 健康危険情報

該当なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1. 中村美保、前田英武、岡崎雅史、西田拓洋、朝霧正、四國友理、笹岡優衣、高田清式、武内世生. HIV 陽性者の就労状況調査—10 年前と比較して—. 日本エイズ学会誌,24(3):99-103,2022
2. Suemori K, Taniguchi Y, Okamoto A, Murakami A, Ochi F, Aono H, Hato N, Osawa H, Miyamoto H, Sugiyama T,

Yamashita M, Tauchi H, Takenaka K. Two-year seroprevalence surveys of SARS-CoV-2 antibodies among outpatients and healthcare workers in Japan. *Jpn J Infect Dis* 75(5):523-526, 2022

3. Morizane A, Uehara, Kitamura S, Komori M, Matsushita M, Takeuchi S, Seo H. Staphylococcus aureus nasal colonization increases the risk of cedar pollinosis. *Jof general and family medicine* 23: 172-176, 2022

4. 高原由実子、三木浩和、中村信元、中村昌史、住谷龍平、大浦雅博、曾我部公子、高橋真美子、丸橋朋子、原田武志、藤井志朗、安倍正博、岡本秀樹、岡田直人、矢野由美子、高橋真理、青田桂子、尾崎修治。HIV 感染症および後天性免疫不全症候群患者の臨床的特徴と今後の課題。四国医学雑誌 78(1,2) : 2022

## 2. 学会発表

1. 高田清式。愛媛での HIV 診療の現況～必要とされている四国地方での実際～。第 92 回日本感染症学会西日本地方会学術集会シンポジウム、2022 年、長崎。

2. 臼井麻子、中尾 綾、西田拓洋、吉川由香、海面 敬、赤松祐美、谷英俊、池谷千恵、中村美保、川田通子、武内世生、佐藤穰、今滝 修、尾崎修治、和田秀穂、千酌浩樹、河邊憲太郎、山之内純、高田清式。中国四国地方における HIV 関連神経認知障害に関する研究。日本エイズ学会、2022 年、浜松。

3. 中尾 綾、レイシー清美、山之内純、末盛浩一郎、河邊憲太郎、竹中克斗、高田清

式。HIV 感染者の気分状態と睡眠に関する検討。日本エイズ学会、2022 年、浜松。

4. 菊池正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、椎野禎一郎、程野哲朗、高田清式、吉村和久、杉浦互他。2021 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向。日本エイズ学会、2022 年、浜松。

5. 中村美保、四國友理、西田拓洋、高橋武史、前田英武、岡崎雅史、宮崎詩織、武内あかり、中尾 綾、高田清式、武内世生。MSW と看護師の連携による ADL 低下患者への復職支援。日本エイズ学会、2022 年、浜松。

6. 若松 綾、本園 薫、中尾 綾、永井祥子、池田 聖、乗松真大、井門敬子、末盛浩一郎、越智俊元、山之内純、高田清式。長期療養患者への関わりについて。日本エイズ学会、2022 年、浜松。

7. 末盛浩一郎、谷口裕美、本園 薫、高田清式、竹中克斗。HIV 感染治療者における BNT162b2 ワクチン接種後の抗体価の評価。日本エイズ学会、2022 年、浜松。

## H. 知的財産権の登録状況（予定を含む）

該当なし